



## 変わる大学受験英語

### 新センター試験

# 「大学入学共通テスト」



現在の大学入試の象徴でもある「センター試験」は、2019年度(2020年1月)の実施を最後に廃止され、大学入試は大きく変わります。

2020年度からは「大学入学共通テスト」がスタートし、今年度(2018年度)の新高1生からこの新テストを受験することになります。

今号では、この大学入試大改革の中でも「英語」関連にスポットをあて、今後どのように変わっていくのか見ていきます。

## □「大学入学共通テスト」概要

センター試験からの大きな変更点は、2つ挙げられます。

①記述式問題の導入と、②英語の4技能(読む・聴く・話す・書く)評価です。

さらに、英語については2023年度で共通テストの英語試験は打ち切れ、

2024年度以降は外部検定試験のみとなる見込みです。

名称	大学入試センター試験	大学入学共通テスト
実施年度	～2019年度	2020年度～
日程	1月中旬2日間	センター試験と同じ
出題教科・科目	6教科30科目	センター試験と同じ ※2024年度からは簡素化を検討
出題形式	マークシート式	数学・国語で記述式導入 ※2024年度からは地公・理も導入検討
英語	2技能評価 (Reading・Listening)	4技能評価 外部検定試験を活用 (※受検は高3の4～12月に2回まで)  2023年度までは外部検定と共通テストの英語を併用(大学が利用方法を指定)

○2017年7月 文部科学省「大学入学共通テスト実施方針」より

## □英語は外部検定試験利用が基本に

英語外部検定試験は「共通テスト」に利用されることもあり、ここ数年その利用率は急激に増加しています。2018年度一般入試では、**全762大学中152大学(約20%)**が利用しており、**前年度に比べ42大学も増加**しています。(旺文社教育情報センター調べ)

では、共通テストに利用される外部試験は何かあるのでしょうか? 以下が昨年12月に大学入試センターに申請された外部試験です。今後、試験内容や実施体制など、必要な水準・要件を満たしている試験がこの中から「認定外部試験」として認定されます。

### 【大学入試英語成績提供システムに参加申請を行った検定】

- 実用英語技能検定(1級、準1級、2級、準2級、3級)
- GTEC(Advanced、Basic、Core、CBT)
- IELTS
- TEAP
- TEAP CBT
- TOEFL iBT
- TOEIC(Listening & Reading Test、Speaking & Writing Test)
- ケンブリッジ英語検定(Proficiency、Advanced、First for Schools、First、Preliminary for Schools、Preliminary、Key for Schools、Key)
- リンガスキル

大学受験者は認定された試験の中から、高校3年生以降の4月～12月の間の2回までの試験結果を活用します。認定試験の成績は試験ごとに難易度や評価方法が異なるため、**結果はCEFR(セファール)※に対応した段階別評価と、認定試験の成績とが大学に送付されます。**

## (※)知っておこう!“CEFR”(セファール)

### CEFR

(Common European Framework of Reference for Languages)は、言語能力を評価する国際指標です。外国語の熟達度を6レベルに分けて評価します。A1が簡単なやりとりができる初心者レベル、そしてC2がほぼネイティブ並みにその言語を活用できるというレベルです。CEFRに換算することで、異なる資格・検定の成績の比較が可能となります。

### 【各試験団体のデータによるCEFRとの対照表】

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC/TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (160-199)	1級 (230-240)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120	1305-1390 L&R 945 S&W 360
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	1095-1300 L&R 785 S&W 310
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-909	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	790-1090 L&R 550 S&W 240
A2	KET (120-139)	準2級 (1224-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		385-785 L&R 225 S&W 160
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120 S&W 80

※2017年7月 文部科学省「大学入学共通テスト実施方針」資料より

## □ TEAP/TEAP CBT

英語外部検定試験の中でも、大学入試での利用を目的につくられたTEAP(ティープ)は、年々採用率が増加しており、**2018年現在、大学での採用率は80%を上回っています。**(旺文社教育情報センター調べ)

### 〈TEAP〉

- 大学で必要とされる英語運用力を4つの技能から測れるテスト(難易度の目安は、英検準2級～準1級程度)
- 年3回の受験機会、高校2年生より受験が可能。
- 大学の求める要件に応じて、4技能パターン、3技能パターン(Speaking無)、2技能パターン(Reading & Listening)のいずれかで受験可
- 成績表には技能別のスコアおよびCEFRの評価と学習アドバイスなどを掲載

### 〈TEAP CBT〉(CBT:コンピュータを使ったテスト)

ICTの多様な機能を利用したTEAPテストで、よりリアルな状況が設定でき、「思考力、判断力、表現力」に重きを置いた英語運用力を測定するテストです。画像や映像と音声と同時に提示することができ、ことば(音声も文字も)と映像等を合わせることで、思考力や判断力を問うことができるとされています。

さらに詳しくは [TEAP 検索](http://www.eiken.or.jp/teap/) <http://www.eiken.or.jp/teap/>

★次号では、大学での採用率NO.1をキープしている「実用英語技能検定(英検®)」について特集します。